

地域と学校の連携・協働体制推進フォーラム 開催報告 概要

地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し、子どもたちの学びや成長を支えていくことが期待されています。そのためには、地域と学校をつなぐ役割を担うコーディネーター機能を充実させていくことが大切です。地域コーディネーターの方、将来的にその役割を担われる地域の方、行政や学校関係者が集い、組織的・継続的な連携・協働体制を一層推進するため、具体的方策等についてともに考える機会として、開催しました。

■日時：6月21日（水） 13：30～17：00

■会場：滋賀県庁東館 7階 大会議室

■内容：

当日は、地域で子どもを育む教育支援活動を実施する組織のコーディネーターや学校運営協議会委員、市町の事業担当者、学校教職員、そして地域住民の皆様など、56名の方に参加をいただきました。

（1）講演・ワークショップ（13：40～15：10）

全国体験活動ボランティア活動総合推進センターコーディネーターであり、国立中央青少年交流の家・所長の山本裕一さんより、「これからの地域コーディネーターのあり方について」と題してご講演いただきました。

講演は、参加者の皆さんが4人グループになり、「子どもが抱えている課題」について意見交換するなど、和やかな雰囲気の中ですすめられました。

山本さんにより、地域と学校の連携・協働の意義や、社会教育のあり方について、豊富なご経験をもとにわかりやすく解説していただきました。



○参加者の声（抜粋）

- ・ 答申等、かみくだいて話をしていただき、今コーディネーターに求められているものがわかった。
- ・ 社会教育の視点からのお話で、これまで聞いてきた話とは切り口の違う内容で学びが多かった。
- ・ 支援だけでなく協働していく重要性がよくわかった。開かれた教育課程で地域社会をつくっていく体制づくりの必要性を認識した。

(2) 情報交換・意見交換によるグループ協議 (15:20~16:50)

後半のグループ協議では、山本さんのファシリテートのもと、参加者の皆さんが具体的な地域コーディネーターの役割をイメージし、各グループで熱心な議論を展開されました。

意見交流やグループ発表をとおして、連携・協働のあり方を主体的に学んでいただくことができました。



○参加者の声 (抜粋)

- ・他の地域で活躍されている方との協議はおもしろかった。出てくる意見も様々で、いろんな方と話すことが大事だと思った。
- ・ワークショップ形式だったので、めざす子ども像から継続的な活動に至るまで内容が深まった。
- ・コミュニティ・スクールの準備期間に入ったので、今日のワークショップを参考に、目指す子ども像からしっかり論議し、しばって明確にしたい。
- ・各校におられる家庭教育支援員さんにも活動の参考になる内容を示していきたい。
- ・地域の方、学校の先生方に、連携・協働に関する取組について、十分知っていただくために働きかける必要がある。そういった役目も担っているのだと思った。